

2025 年 12 月期第 2 四半期決算説明会（2025/07/30 開催）

質疑応答要旨

※当日のご質問および回答に、一部表現の変更や加筆・修正を行っております。

Q:コミュニケーション IT セグメントで、官公庁・自治体向けにニーズが高まっているとの説明があったが、どのような案件か？

A:業務効率化に関する案件が活況。たとえば省庁向けでは、Salesforce や当社製品である iPLAss を使用し、システムを構築する案件。特に当社の iPLAss はローコード開発プラットフォームであるため、生産性高く開発することが可能であり、今後も横展開していければと考えている。

Q:製造ソリューションセグメントの受注残高が減少した要因は、前期案件の反動減とのことだが、反動減を除くとどのような状況か？

A:SAP の大型案件の反動以外に、サブスクリプション契約の売上計上が進んだことも残高減少の要因。当上期は、サブスクリプションの大型契約がなかったこともあり、これらが反動減となった。下期に向けては、自動車メーカーや電機精密メーカーで大型の商談が進んでおり、Q3 以降の売上高に貢献し始める見通し。

Q:通期の営業利益達成に向け、下期は生産性が向上するとの説明があったが、具体的にはどのようなものか？

A:下期は、当社にとって利益率の高いソフトウェア製品と商品のアドオン開発を中心に増収を見込んでいる。一方で、採用人数は期初計画より下回るため、一人当たりの売上高が増加するとともに、稼働率も上がり、利益率が向上する想定である。

以上